

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプA 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	北海道大学
事 業 名	優れた教育研究能力を有する高度医療人材養成拠点構築プロジェクト ～相互支援” WinWin” 体制からの臨床・基礎融合研究の推進～
事 業 責 任 者	北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 機構長 教授 佐藤 典宏
事 業 の 概 要	
本事業では、優れた教育研究能力を有する高度医療人材養成拠点として、診療参加型臨床実習の充実と国際レベルの臨床・基礎融合研究の推進を目指す。臨床・基礎手技指導を担当する教育支援者を確保し臨床実習の充実を図ると共に、医学生、研修医、大学院生が若手医師の研究支援を行う制度設計を行い、持続可能で WinWin な支援体制を構築する。一方、がん・ゲノム領域を主体とした臨床・基礎融合研究の基盤としてデジタル病理データベースを構築し、医療情報の活用と合わせた研究支援者を確保し、医師の研究時間の省力化に貢献すると共に国際レベルの臨床研究を推進する。これらの教育・研究体制を北海道各地域の協力校等と連携して実現する。さらに拠点として我が国の医薬品、診断薬、AI 医療機器開発などに貢献する基盤を目指す。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○臨床遺伝子診療部を設置し、がんおよびゲノム医療の診療と研究を推進し、特基礎研究と臨床研究融合の基盤となる病理部門を Class II の医療機器によるデジタル化を推進することで国際レベルの臨床研究推進の方策としている。 ○研究と教育の支援人材がバランスよく配置されており、効果が期待できる。 ○シニアトレイニーや医学生病院 SA 制度については、実現可能性が高く斬新なアイデアである。 ○医療系職員（看護師・臨床検査技師等）1 名を技術補佐員として雇用し、シミュレーション教育を充実させるとともに OSCE の運営に関与し教員の負担軽減を図るという点も、現行の OSCE 試験が教員に対して時間的負荷になっていることを鑑みると優れたアイデアであると思われる。 ○CC-EPOC や mini-CEX など新しい評価体系が導入され、学生の達成度が正確に評価される。 ○教員の能力開発を通じて診療参加型臨床実習への理解を促進しており普及効果が期待できる。 ○本院、HELIOS、臨床研修センター、医学研究院病理学講座など複数の組織から情報を発信することは事業成果の普及において望ましい。 ○複数の担当部門が関わっており、多くの品目の薬事承認を得るなど実効性が高い。 ○HELIOS は研究支援業務に伴う支援費等で運用する体制を実現しているが、これをモデルに外部資金や企業との共同研究の研究費を活用することは実効性が高い。 ●ゲノム遺伝子についてがん領域はやや対象疾患領域が限定される印象がある。 ●病理部門のデジタル化の推進が他分野に及ぶ複数の展開項目についても検討することが望ましい。 ●WPI との共同研究は示されているが、国際的な臨床研究の具体的な実績が見受けられない。 ●医学教育・国際交流推進センター及び臨床研修センターにおける臨床・基礎手技指導の充実することを目的とした人員の増員がもたらす効果や役割なども明確にすることが望ましい。 ●デジタルデータベースが幅広く普及されることを期待したい。 ●学生、研修医に対しての教育担当部門が病理関連組織に偏っているため、複数の分野が協力する体制を構築するなど、負担が集中しないような方策を検討することが望ましい。 ●医学研究院統合病理・腫瘍病理学教室以外の他分野あるいは複数のプログラムも共同した人材育成を行うことを期待したい。	

- 臨床実習が研修医やシニアトレイニーによる指導に依存しすぎないように留意する必要がある。
- KPI を適切に評価できるよう、現行の数値も明示して行うことが望ましい。
- 診療参加型臨床実習推進の取組が学外機関のFD・SDのみにとどまらないことも期待したい。
- 腫瘍病理学教室は化学反応創成研究拠点で4つの領域の共同研究を行いHELIOSを中心に支援しているが、拠点大学として病理技術やバイオバンクにとどまらない役割・事業成果の普及がなされることを期待したい。
- タスクシフトへの具体策が少ないため、多角的・多面的な取組で対応することが望ましい。
- 学長や医学部長などより多くの講座・部署からの参画が望ましい。
- シニアトレイニー制度が早期に導入されることを期待したい。